

DP (ディプロマポリシー) アンケートにみる大学授業の省察
 ～『教育方法論』『教職基礎論』を事例として～

学校教育講座 (教育学) 白松 賢

1-1 『教育方法論』と DP への対応

『教育方法論』の目的は、「(1)学習者の立場から、教育者 (指導者・支援者) の立場へ意識・態度が転換できる、(2)教師力量の知識や技能を獲得し、向上することができる、(3)教育方法に関する知識を獲得し、基礎的実践力を身につけている、(4)自らが実践を作り上げる思考力を持ち、実践的なスキルを身につけている」の4つである。とりわけ、教育方法的専門知識及び技能の修得をねらいとしている。

授業の内容は、1 回目：教育方法学の成立と展開 (知識理解)、2 回目授業を創る－学習指導要領の拘束性と指導案の構造、3

回目：授業を創る－教師のコミュニケーション力と特別活動、4 回目：教授法の背景と実践の違い－特別活動の開発的/解決的アプローチ、5 回目：教授法の背景と実践方法－特別活動の開発的アプローチ、6 回目：教師の授業力量・・・教材研究から授業化まで、7 回目：授業のスキル－指示・板書・説明・指名－、8 回目：まとめ、という流れで構成したが、授業のスキルについては、時間の関係上、かなり割愛せざるをえなかった。

1-2 DP 対応意識調査結果

本講義は実践的な内容を中心とするもの

の、受講生の志望する教科や学校段階は異なるため、知識理解に近い形での技能の修得となる。そのため、表1の中で考察すると、DP1A (教育に関する知識の修得)、DP3A (教育活動に必要な高い技能の修得) が主となっているが、DP3A についてはある程度の限界が前

表1 年度比較による教育方法論のDP対応意識

		対応している	どちらかといえ ば	どちらかといえ ば	対応していない	計
2014	総合人間形成 スポーツ健康 芸術文化 DP1 教育に関する確かな知識と得意とする分野の専門的知識を修得している DP1A: 教育に関する知識の修得	51.9%	46.3%	1.9%	0.0%	100.0(54)
2013	DP1A	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%	100.0(34)
2014	DP1B: 得意分野の専門的知識の修得	27.8%	51.9%	14.8%	5.6%	100.0(54)
2013	DP1B: 得意分野の専門的知識の修得	38.2%	41.2%	8.8%	11.8%	100.0(34)
2014	DP2 教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。 DP2A: 教育をめぐる現代的諸課題の理解	37.0%	63.0%	0.0%	0.0%	100.0(54)
2013	DP2A	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	100.0(34)
2014	DP2B: それへの適切な対応策の在り方...	25.9%	68.5%	3.7%	0.0%	100.0(54)
2013	DP2B:	61.8%	35.3%	2.9%	0.0%	100.0(34)
2014	DP3 教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。 DP3A: 教育活動に必要な高い技能の修得	29.6%	51.9%	11.1%	7.4%	100.0(54)
2013	DP3A	58.8%	35.3%	5.9%	0.0%	100.0(34)
2014	DP3B: 教育活動に必要な豊かな表現力の修得	24.1%	55.6%	14.8%	5.6%	100.0(54)
2013	DP3B	47.1%	44.1%	8.8%	0.0%	100.0(34)
2014	DP4 自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。 DP4A: 自己の学習課題の明確化	31.5%	57.4%	9.3%	1.9%	100.0(54)
2013	DP4A	44.1%	44.1%	11.8%	0.0%	100.0(34)
2014	DP4B: 理論と実践を結びつけた主体的な学習への意欲	18.5%	64.8%	13.0%	3.7%	100.0(54)
2013	DP4B	44.1%	47.1%	8.8%	0.0%	100.0(34)
2014	DP5 専門的職業人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。 DP5A: 専門的職業人としての使命感や責任感の形成	33.3%	55.6%	9.3%	1.9%	100.0(54)
2013	DP5A	64.7%	23.5%	2.9%	8.8%	100.0(34)
2014	DP5B: 多世代にわたる対人関係力の育成	31.5%	46.3%	18.5%	3.7%	100.0(54)
2013	DP5B	44.1%	41.2%	11.8%	2.9%	100.0(34)

提となっている。

それでは、実際のアンケート調査結果(表1)から、授業のねらいが学生の意識においてどのように理解されているかをみてみたい。表1は2014年報告の結果と2013年報告(昨年)の結果を並べて表示している。

表1から明らかになっていることは、2014年報告も昨年と同様に、DP1Aへの対応状況が学生にも意識されている。しかしながら、昨年度と大きく異なったのがDP3Aの項目である。今年度時間的な流れから、実践的な授業のスキルが提示できなかったことに起因すると考えられる。また本授業の受講者の教職免許について、「体育」「音楽」「美術」といった技能系教科を志望する者が多く、それぞれの学習者のニーズが異なっていることもその背景には存在している。道徳や特別活動などの「領域」科目の授業実践のスキルとして展開することで、この課題を改善していく必要がある。

2-1 『教職基礎論』とDPへの対応

授業の到達目標は次の3つである。①教職の意義と教員の役割, 教員の身分・資格, 職務内容, 学校の現状と改革動向, 社会が求める教師像について確かな知識と理解をもち, 分かりやすく説明できる。②教員生活の現状を知り, それを自身の進路選択の参考とすることができる。③教師としての成長という観点から, 今後の学修をロードマップとして構成することができる。この到達目標は、DP1AとDP5Aに主として対応している。

2-2 DP対応意識調査結果

DP対応に関する学生の意識を分析結果が表2である。この表からは、DP1Aに「対応している」と回答した学生が94.4%であり、DP5Aに「対応している」と回答した学生が84.8%である。どちらの項目も「どちらかといえば対応している」も含めると100.0%の学生が対応していると回答しており、授業目的と学生の意識が一致していることが明らかとなった。教育をめぐる現代的課題については重点的な内容をくんで

表2 教職基礎論

1年生	対応している	どちらかといえる	どちらかといえない	対応していない	計
DP1教育に関する確かな知識と得意とする分野の専門的知識を修得している	94.4%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0(125)
DP1A: 教育に関する知識の修得					
DP1B: 得意分野の専門的知識の修得	50.4%	32.0%	8.8%	8.8%	100.0(125)
DP2教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。	96.0%	3.2%	0.8%	0.0%	100.0(125)
DP2A: 教育をめぐる現代的諸課題の理解					
DP2B: それへの適切な対応策の在り方...	84.8%	15.2%	0.0%	0.0%	100.0(125)
DP3教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。	56.8%	38.4%	46.4%	0.8%	100.0(125)
DP3A: 教育活動に必要な高い技能の修得					
DP3B: 教育活動に必要な豊かな表現力の修得	55.2%	37.6%	7.2%	0.0%	100.0(125)
DP4自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。	68.8%	28.8%	2.4%	0.0%	100.0(125)
DP4A: 自己の学習課題の明確化					
DP4B: 理論と実践を結びつけた主体的な学習への意欲	61.6%	35.2%	3.2%	0.0%	100.0(125)
DP5専門的職業人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。	84.8%	15.2%	0.0%	0.0%	100.0(125)
DP5A: 専門的職業人としての使命感や責任感の形成					
DP5B: 多世代にわたる対人関係力の育成	55.2%	32.8%	9.6%	2.4%	100.0(125)

はいないが、96.0%の学生がDP2Aに「対応している」と回答している。学校教育における問題を事例としながら解説を加えた結果、この高い数字となっていると考えられる。